

野村英夫

猿渡重達



沖積舎

猿渡重達（さわたり しげさと）

1949年 東京に生れる。

1976年 上智大学大学院仏文科博士課程修了。

現 在 聖マリアンナ医科大学専任講師。上智大学非常勤講師。専攻 文体論, 比較文学。

著 書 『司祭館 野村英夫詩集』(沖積舎)

訳 書 シャルル・ペギー『希望の讃歌—第二徳の秘義の大門—』(中央出版社)

野村英夫——夭折のカトリック詩人

昭和五十四年十月二十九日発行

著 者 猿渡重達

発行人 沖山隆久

発行所 株式会社沖積舎

東京都千代田区神田神保町一五二

電話東京三一七七六三三 振替東京三一七七六三三

印刷宝印刷 製本篠崎製本

野村英夫

——
夭折の
カトリック
詩人

猿渡重達

沖積舎



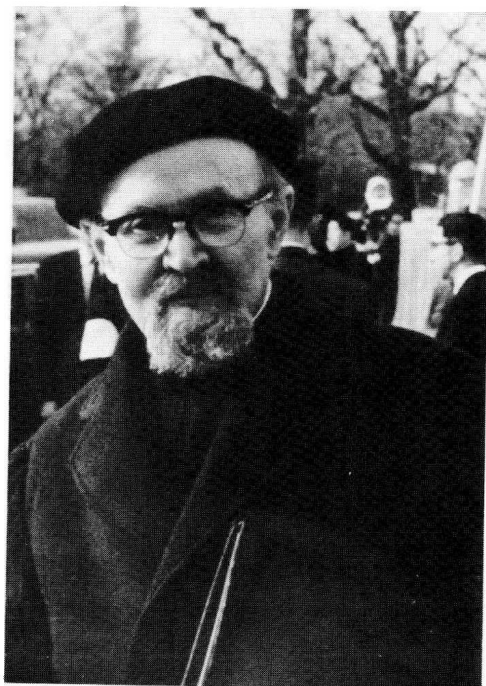
野村英夫（早大仏法科時代）



↑ ソフィア書院「望楼」詩の編集町・
長尾喜又氏

← 英夫に洗礼を授けた野口由松神父
(現広島司教)

→ 詩集『司祭館』のモデルとなっ
たギュスターヴ・マイエ神父
↓ 洗礼の代父・吉満義彦氏
(哲学者)



LIBER BAPTIZATORUM.

ANIMADVERSIONES.

Nº. 700

野村 英夫

Nomura Hideo

Confir: 9. maii 1943.

Matrimonio junct

die

in

cum

vici

Anno Domini 1943, die 25, mensis aprilis

In Ceratorio publico Koenji

baptizatus est Nomura Hideo

natus Tochio 6. nov. 7. 13^a.

ex Suginami Koenji 4. 557.

filius Nomura Toshitaka et Kikue

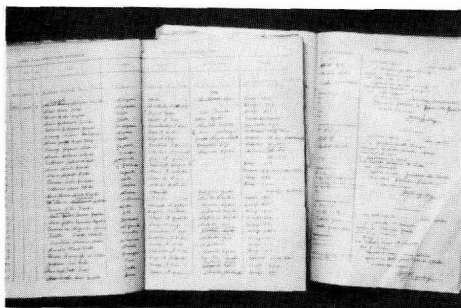
a me infroscripto

Impositum est nomen Franciscus Assisiensis

Patrinus fuit Joannes Dr. Yoshimitsu Yoshitaka

In quorum fidem subscripsi.

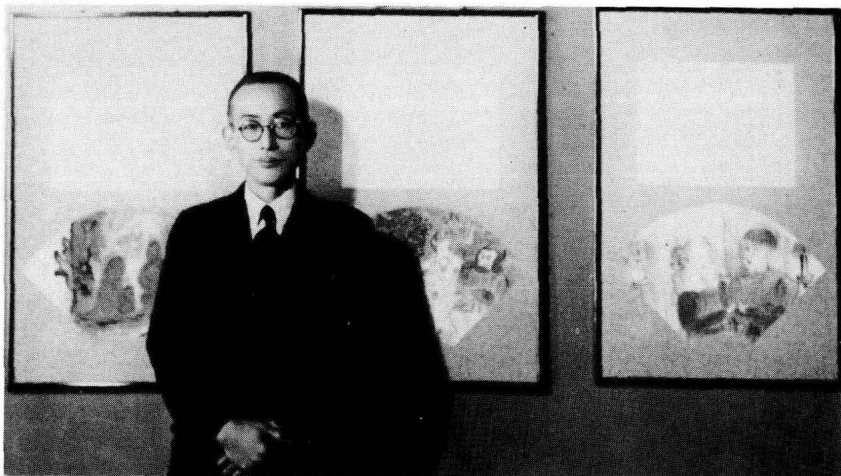
Dr. Yoshitaka



↑「洗礼台帳」野村英夫の箇所

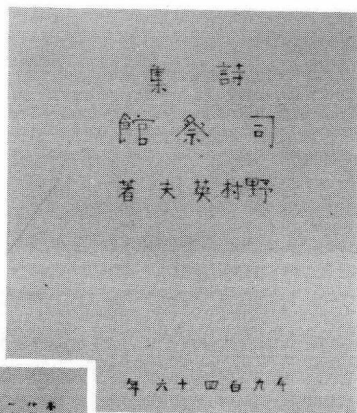
←洗礼台帳（右）と堅信台帳（左）

↓堅信の代父・木村太郎氏（仏文学者・現南山大学名誉教授）。背景はクロード・マリアへのお告げの場面を描いた木村氏の絵と文（昭和18年12月撮影）



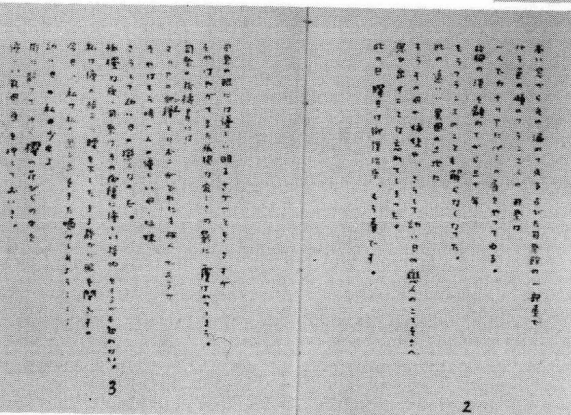


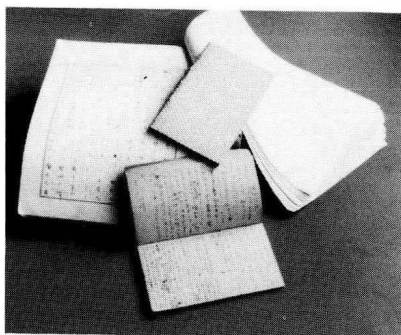
↑ 高円寺教会の旧司祭館（一階左端がマイエ神父の部屋だった。二階は戦災で焼失。カマボコ屋根は終戦後に進駐軍から払下げられたもの。



→ 手書き詩集『司祭館』の扉

↓ 手書き詩集『司祭館』の本文

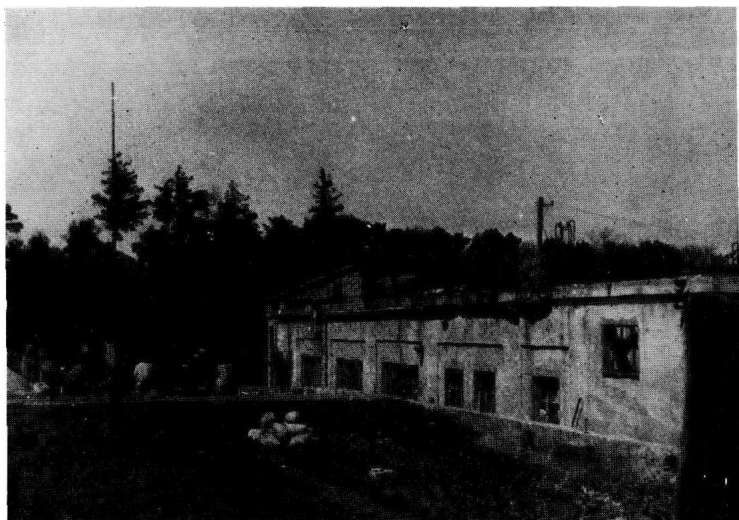




↑ 遺稿「尼僧院物語」と二冊の「創作ノート」
 ← 野村英夫と野口神父（昭和18年秋）

高円寺教会聖堂前の集合写真。後から三列目、向かって右から四人目（背広姿）が英夫。最後列左から二人目は吉満義彦氏。（昭和14年6月25日の堅信式に撮影。この四年後に英夫はカトリックへ入信した。）





高門寺教会の聖堂。珍しい地下聖堂室であった。(昭和20~21年ごろ)

聖木曜日には灰色な木曜日、

真珠母色の夜が街に落ちると

人達は灰色な地下聖堂に集つて来る。

水晶珠のコンタツは私の手の中で涙のやうに光り
少女はこぼれた涙のやうに胸に小さな十字を切る。

フランス人の老司祭は

一人のフランススカンの旅僧と一緒に

優しい歌をうたつた。

十字架はその悲しい繰り返しのたびに

御絵の前を一つづつ進んでゆく。

此処にてイエズス初めて蹟き給ふ……

此処にてペロニカその手帛を投げ与へ給ふ……

此処にてマリヤ泣き給ふ……

悲しい歌はそのたびごとに

老司祭の優しい口に繰り返される。

聖木曜日は灰色な木曜日、

司祭館の影も

夜の中で悲しい祈りを聞いてゐる。

野村英夫——夭折のカトリック詩人

猿渡重達

目 次

第一章 詩人の肖像——15

生いたち——16

「四季」派最後の詩人——20

英夫と「創造」の主筆たち——23

初期の詩篇——28

病苦の聖化と奉獻への道——36

早すぎた死——昭和詩の試金石——42

第二章 詩集『司祭館』をめぐる——49

『司祭館』の連作詩篇——50

『司祭館』の成立背景——65

手書き詩集『司祭館』の異本——73

第三章 新資料解題——81

I カトリックの人びとの書簡——82

II 忘れられた作品——119

(一) 山の妖怪トモイ——津村信夫論ノート——120

(二) 詩二題「落日」・「別離」——137

(三) 津村信夫論ノート——142

第四章 野村英夫小論・覚え書き——153

モジリアニの少年——〈色彩〉から見た野村英夫——154

野口司教と思ひ出の詩人・野村英夫——169

野村英夫と高円寺教会——172

野村英夫とフランス・ジャム——181

主要参考文献一覧——197

年譜——209

目 あとがき——247

第一章 詩人の肖像